

2011年3月6日

報道関係各位

ジャパンインターナショナルボートショー2011 終了
3月3日(木)～6日(日) / パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)

早春の横浜で開催されたボートショーに約4万3千人が来場

社団法人日本舟艇工業会は、2011年3月3日(木)から6日(日)までの4日間にわたり、パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)において『ジャパンインターナショナルボートショー2011』(第50回)を開催し、4日間で43,240名のご来場者がありました。(日別一覧は次頁ご参照)50回記念となった今回は、天候にも恵まれ過去5年で最高の来場者数を記録しました。

パシフィコ横浜の屋内展示ホールと屋外展示会場に、163社・団体が2011年ニューモデルなど多種多様なボート、ヨット、水上オートバイ等198隻を出展しました。マリンレジャーの魅力と最新情報をお伝えするとともに、ボートショー開催50回記念プログラムとして、さまざまなイベントプログラムを実施しました。

ボートショー開催50回記念として中学生以下を対象に行った「みらいの海の乗り物 絵画とアイデアコンテスト」には655作品が寄せられました。ボートショー公式ポスターの作家でもあるマリンイラストレーターの^{ただみ}Tadami氏を中心に審査し、「ボートショー50回記念賞」等を選考。アースマラソンを完結させたばかりの間寛平さんに「間寛平賞」を選んでいただきました。寛平さんは3日の開会式式典とトークショーに登場、4日には友情出演で「若大将」加山雄三氏がステージに登場し、平日にもかかわらず館内は熱気に包まれました。

また、注目の釣りガール、^{いしざきみちえ}石崎理絵さんとふくだあかりさんのボートフィッシングの魅力を伝えるステージ、さらに主催者企画の「マリンパラダイスコナー」では、「体験してみよう」と「見てみよう」の二つのゾーンを設け、添畑薫氏、後藤孝昭氏の海の写真展や、「海楽習」というタイトルのもと、ウォーターセーフティーニッポンやビーチクラブ全国ネットワーク、ヤマハ発動機等が、ヨット操船シミュレーション、シーカヤック体験、ボート工作、貝殻キャンドル創作等多彩なプログラムを実施し、家族連れを中心に延べ約4,000名の方が参加されました。

いっぽう臨港パークでは横浜港ボート天国のご協力で、マリンスポーツ財団主管の「マリンスポーツフェスタ」を行い、ジェットスポーツの迫力ある演技に散歩や観光に訪れた方々も思わず見入って歓声を上げていました。

なお2013年に日本で視覚障害者ヨットの世界選手権を開催するNPO法人日本視覚障害者セーリング協会のPRに協力し、当初、同協会に寄贈の予定であった、マリンチャリティオークションの売上金(約26万円)は、日本赤十字社を通じて同協会と当工業会の連名で震災に見舞われたニュージーランドに義援金として送ることとなりました。



●ご来場者数

	来場者数 (カッコ内は昨年)	累計
3月3日(木)	6,036名 (4,886)	—
3月4日(金)	6,635名 (6,985)	12,671名 (11,871)
3月5日(土)	13,342名 (11,863)	26,013名 (23,734)
3月6日(日)	17,227名 (14,146)	43,240名 (37,880)

●出展者／展示マリンプロダクツ

163社・団体／198艇

内訳			
ボート	9社	41艇	
ヨット	10社	21艇	
水上オートバイ	6社	52台	
スモールボート	6社	44隻	
カヌー	9社	40隻	



↑ 間寛平さんもお招きしての3月3日の開会式



↑ メイン会場(パシフィコ横浜)全景



↑ 屋外展示会場には全長 15.10m を最大に 8 隻を展示。



↑ サプライズで登場の加山雄三さんのトークショーには立ち見もでるほどの盛況でした

●本件に関するお問い合わせ、また画像などご希望の際はこちらへご一報ください●

※2011年3月18日15時まで

社団法人日本舟艇工業会 広報分室(共同PR内)／担当:野田

TEL:03-3571-5228／E-mail: m-noda@kyodo-pr.co.jp